

◎新聞記事 (抜粋)

2007年(平成19年)4月19日(土曜日) 2007年(平成19年)4月17日(木曜日)

東愛知カラニユース

資料充実、4テーマに区分

愛大豊橋校舎 大学史展示室リニューアル



きょう記念セレモニー

愛知大学豊橋校舎の歴史館内(左)を撮影。リニューアルされた展示室の様子が写っています。右は記念式典の様子。

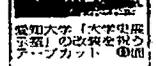
愛知大学豊橋校舎の歴史館内(左)を撮影。リニューアルされた展示室の様子が写っています。右は記念式典の様子。



リニューアルされた大学史展示室。豊橋市の愛知大豊橋校舎で。

愛知大学豊橋校舎 歴史資料紹介や寮の再現 大学史展示室を一新

愛知大学豊橋校舎の歴史館内(左)を撮影。リニューアルされた展示室の様子が写っています。右は記念式典の様子。



愛知大学「大学史展示室」の改築を祝うイベントの様子。



愛知大学豊橋校舎の歴史館内(左)を撮影。リニューアルされた展示室の様子が写っています。右は記念式典の様子。

平成19年(2007年)4月20日(金曜日) 清水西(西)

創立来の歴史紹介 愛知大豊橋校舎 大学史展示室を一新

愛知大学豊橋校舎の歴史館内(左)を撮影。リニューアルされた展示室の様子が写っています。右は記念式典の様子。







2007年(平成19年)4月29日(日曜日)

### 法学者としての業績紹介

愛大前学長の石井吉也氏 本間啓一さんを語る



本間啓一氏の業績を語る石井氏  
＝愛知大学博物館蔵

愛知大学東亜同文書院 大学院研究科の教授に就いた。その中で、法哲学  
大学記念センターは28年。以来、第2、第4代を研究する情熱の背後  
に、同大博物館各研究館 学長を務めたほか、13年間にわたり研究と教育に  
て公開講演会を開き、前 間にわたり研究と教育に 全精力を傾けた。  
学長・石井吉也氏が、大 学創立者の一人である、  
第4代学長・本間啓一氏 出身で、本間氏から法法 うとしたのが助機だ。  
の法学者としての業績を ついては時に激論を交わ したと解した。「本間氏は  
熱く語った。 人間の個性に全賴の信頼  
を置いた人間だった」と  
本間氏は東大法務部が 講演で石井氏は、本間 くと、本間氏のヒューマニ  
ら東京地裁の判事、東京 氏が商法の大家だけであ ーストの本質を明らかに  
函大(一橋大)教授を経て して、法哲学の研究にも半 した。  
て1946(昭和21)年 生をささげた姿などを  
1月に愛大法経学部と同 敬愛の念をもって振る返

裁判官としての善徳の「手形法、小切手法講義  
愛知大学の学長を任期 ビソド、東大教授時 案(一橋の講義で使  
満了してから10年近く 代の「法とは社会が正義 について説明された。  
なる。教壇に立つての講 の表現のためにつくった 「小切手などの権利放  
義は5年ぶり」といっ。 法則」であり「法の目的 棄と移転」「裏書禁止や  
本間啓一学長の愛 は正徳に統一」といっ本 乱肩問題」など一般社会  
石井氏は、愛知大生を 聞先生のこうした考えを 人としても興味のある高  
時代からの学問、商法学 披露した。 また、本間先生の愛大 度な問題を分かりやす  
を本間先生から学んだと 事件で衆議院の行政監察 説は愛知者をうなずかせ

いい、「人生そのものの 委員会での審判でも、そ いていた。  
先生でもあったと横述 の考え方が根底に随所に うかがわれるのである。 昨年、文部科学省の愛知  
する。 石井氏は、「目的論的 大東亜同文書院大学記 念センターに対する私立  
半時代の本間先生や、三 解理論の火眼」には、 念センターに対する私立  
淵忠彦氏(初代最高裁長 「有価証券の概念」につ 大東亜同文書院大学記  
官」との出会いを語った いて語られ、さらに、 事業、オーブリーサーチ  
あと、法哲学に没頭し、「有価証券の概念」や センター整備事業」とし

折しもこの4月、「大 学史料展示室」も公開さ された。愛知大学前身の上海  
東亜同文書院大学(創立 1901年)を継承した  
物証など100点以上が 見学者の目を留めている  
よみだ。  
この七夕、全国各地 から同文書院大学遺族の  
関係者や、京都時代の名 殊の見学者も多く、団体  
申し込みのウオーキング 仲間も増えさせた。

「愛知大学同文書院セ ンターファンクラブ」を 創(つく)ったのはどうか という地区の西さん(山 崎)も話している。幼稚園 や小中学校の生徒が、地 域ボランティアの先生ら  
説明を聞きながら、愛知 大学構内を散策している 姿も時々見られる。  
ナンジャモンジャの本 や豊橋市花つづじも、 満開だ。愛知大学も観光 ルートの一つにあげられ つつあるようだ。  
詳しい問い合わせは、 電話0532(47)41 11まで。

## 石井吉也元愛知大学長の講義と大学史展

愛知大学東亜同文書院大学記念センター客員研究員・運営委員 越知 専



講演する元愛知大石井学長

### 寄稿

愛知大学の公開講座  
の研究館第一・二・三  
で開かれた。  
講師は元愛知大学学長  
「愛知大学の創立者 本  
の石井吉也氏、教職員や  
関係者(法学者としての  
一般市民など合計約30人  
が、時間の満員と30分余  
軌跡」が4月29日(土)、

## 愛知大学の歩みPR

### 公開講座や史料展示室新設

「愛知大学同文書院セ ンターファンクラブ」を 創(つく)ったのはどうか という地区の西さん(山 崎)も話している。幼稚園 や小中学校の生徒が、地 域ボランティアの先生ら  
説明を聞きながら、愛知 大学構内を散策している 姿も時々見られる。  
ナンジャモンジャの本 や豊橋市花つづじも、 満開だ。愛知大学も観光 ルートの一つにあげられ つつあるようだ。  
詳しい問い合わせは、 電話0532(47)41 11まで。



新設された展示室

故・本間愛大名譽学長 愛用の品々

長女の殿岡晟子さん寄贈

本間喜一愛知大名誉学長の長女・殿岡晟子さんが、このたび、父上の愛用の品数点を愛知大学東亜同文書院大学オープンリサーチセンター(藤田佳久センター長)に寄贈された。

これは愛知大学史展示室(4月19日オープン)の完成をかねて、本間喜一先生にゆかりのある品を展示したいとするセンター側の希望によるものである。



越知 専

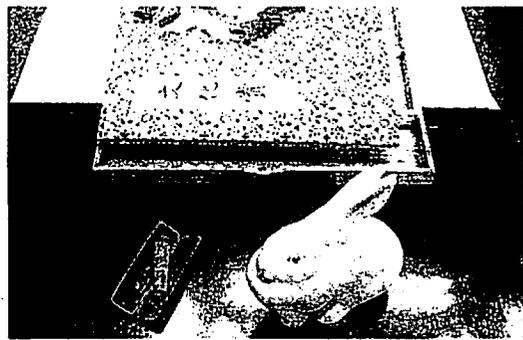
まず、古くは東京城裁判権時代の時代から東京商大教授(一橋大学名誉教授)時代、上海の東亜同文書院大空時代、戦後は愛知大空政立や初代の最高裁判所事務総長時代、そして愛知大学の創設にもかかわるすべての書類(券類の時のもの)に押された愛印(115×107×1.1mm)が水品の細長い大型印鑑がケースと共に、藤田センター長に手渡された。

また、先方が昭和30年代から常時使用していたハンモ手渡された。これは、法政大時代の教え子、法学者・児玉勝氏(全国員海苔漁業組合顧問兼監事)からプレゼントされた茶色紙の手掛けカバン(38×25×10cm)で、亡くなされた直前まで愛用していたという。さらにまた、うまき等の陶器も寄贈された。先生が明治24年卯年生まれであったことから、安田財閥の安田鶴次郎宅にあった山姥ある贈り物である。

そして洋目されたのは、豊橋文化協会(昭和21年創立、現豊橋文化振興財団の前身)の会長神野太郎氏から昭和30年1月3日に贈られた「豊橋を照らす燈台」であった。これは、10分及び4頭彫文が毛筆で書かれていた立派な楕圓入りの「文化賞」である。「文化的不毛地帯」と呼ばれた

注目された「文化賞」

本間先生愛用の愛印と安田財閥から贈られたサキの贈物、「豊橋文化賞」



豊橋を文化的に躍進させたのは愛知大学の本間喜一氏ということである。

この「文化賞」は先生が豊橋の市民から敬愛されていた証拠といえるだろう。

この愛賞のときの喜びを本間先生は「こういって褒めは、できる

ただ内緒でやってもらいたい」と私に話されたことがある。

こうした貴重な本間家に伝わる遺品も随時愛知大学に寄贈されており、すでに阿片戦争を戦った林則徐による一対の掛け軸や中口友

好協会会長の孫平化氏が本間喜一先生の御病気をお見舞いに来日し、先生のために持参した「名高北斗 寿比南山」と揮毫(きご)された書は大学展示室に飾られている。

そうした本間喜一先生のゆかりある貴重な諸資料がいずれ「本間喜一コーナー」としてまとめ、生い立ちから法学者を目指した時代、判事検事の時代、東京商大(一橋大学)教授時代、東亜同文書院大空長時代、愛知大空創立から二代、四代の学長時代など各時代に分類整理されて展示される計画も進めていきたい。

マ愛知大学東亜同文書院センターの問い合わせは、電話0532・47・4111。

・愛知大学東亜同文書院大空記念センター事務局研究員・速谷真美(まみ)

2007年(平成19年)6月10日(日曜日)

【10】

東 愛 栄 口 深 介 廣

# 元学長が建学精神など紹介

愛大東亜同文書院大学記念センター

## 牧野氏迎え豊橋校舎で講演会

東亜同文書院大学と私



豊院大と愛大の関係について語る牧野氏。豊橋校舎で。

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは9日、愛大豊橋校舎で講演会を開き、元愛大元学長の牧野由明氏が「愛知大学と東亜同文書院大学と私」をテーマに、中日大辞典

あることについて、「中国上海にあった豊院大の教授陣がいたからこそ戦後すぐにつづられた愛大の設立趣意書の中で盛り込まれた言葉。海外にいた経験が生かされている」と解説。  
中日大辞典については「中国の大学に向き愛大の紹介をするときに中日大辞典を編纂(さん)した大学です」と受と相手の態度が一変するほど」とし、「豊院大が辞典の編纂を始めたから豊大が引き継いで行くことができた」と述べた。(竹下真信)

愛大と東亜同文書院大学を演題に

### 9日に牧野元学長が講演

愛知大学東亜同文書院と私を演題に講演する。大学記念センターは9日午後1時半から3時半まで、愛大豊橋校舎研究館から指野を授け、またで講演会を開く。牧野由明・元愛大元学長が「愛知大学と東亜同文書院大学

いて詳しい。

入場無料、申し込み不要。問い合わせは同記念センター(0533・474139)へ。

(竹下真信)



### 東亜同文書院の略

講師は愛大元学長の牧野由明氏

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは、9日午後1時30分から豊橋市町畑町の同大学豊橋校舎研究館1階第1、2会議室で公開講演会を開く。入場無料。講師は同大学元学長、名譽教授の牧野由明氏。

「愛知大学と東亜同文書院大学と私」と題し、自身が高学在学中、東亜同文書院大学や京城大学出身の教員に教えを受けたい思いや、学長として中国との学術教育交流に尽力した経験などを講演する。

問い合わせは、愛知大学東亜同文書院大学記念センター(電話0533・474139)へ。

### 寄稿

今泉 潤太郎

今から120年も前にな  
る。福澤諭吉は自分の経営  
する「時事新報」に社説を  
書いた。明治初年の日朝條  
好条規締結以来、朝鮮、海  
國との連帯を強め、西國の  
近代化を阻もうとする動き  
は、壬午軍亂(大院君の反  
乱)から甲申事変(金玉均  
のクーデター)にかけて急  
速に衰退し、これまでの友  
好ムードが敵対ムードに  
変じた。

鮮改革派に対する支援も失  
敗したことへの挫折感や憤  
激の念の発露ともみられる  
この社説は、甲申事変の翌  
年明治18年3月16日の発表  
された。

近代化への努力を怠る國  
は、欧米列強によって分割  
されても止むを得ない。日  
本も欧米とていつか東洋の  
の分割に加わるべきだとす  
る議論、のちの「原罪論」  
に引き継がれる内容でこの  
社説がもつては高き足で  
ない。

この10年後ついで日清  
戦争が始まることになる。  
その頃荒尾精は対論敵  
「對清非宗」を発表し、戦  
勝を目前にして争奪の世  
論に對し、國權への賠償金  
と領土の分割を要求するな  
でないと考えを公開した。

諭吉より25歳下の荒尾精  
は愛知県の出身で、陸軍教  
官団を出た後、参謀本部に  
勤務した優秀な軍人であ  
る。海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

## 時代を先駆けた荒尾精



「主義とする所はただ脱  
罪の二字に在るのみ」「我  
國は露國の開明を待つて、  
共に亜細亞を興すの猶予あ  
るべからず」「露國なるが  
故にて特別の念釈に及ば  
ず、また西洋人がかくれた  
接するの風に従て処分すべ  
きのみ」「我は心にして亜  
細亞東方の朋友を擁護する  
ものなり」。諭吉個人の朝

論「對清非宗」を発表し、戦  
勝を目前にして争奪の世  
論に對し、國權への賠償金  
と領土の分割を要求するな  
でないと考えを公開した。

諭吉より25歳下の荒尾精  
は愛知県の出身で、陸軍教  
官団を出た後、参謀本部に  
勤務した優秀な軍人であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

村上武氏が公開講演会  
30日、愛大豊橋校舎  
村上氏は父・徳太郎が1931  
(昭和6)年に創立した東光醫院の  
院長を70年に受け継ぎ、現在、同院  
院報「回光」の編集・発行も  
務めている。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

海國との通商貿易を漸く  
圖が共に繁栄するものと見  
りていつかの家を著者でい  
う議論は、まるで「二一  
」である。彼はこの抱負を  
突放すべく惜しまれつつ  
教員団に於て筆を揮った。  
と共に進歩し、明治23年31  
歳で上海で日朝通商研究  
所を設立した。これは一種  
の「リサーチセンター」であ  
る。

2007年(平成19年)6月13日(水曜日)

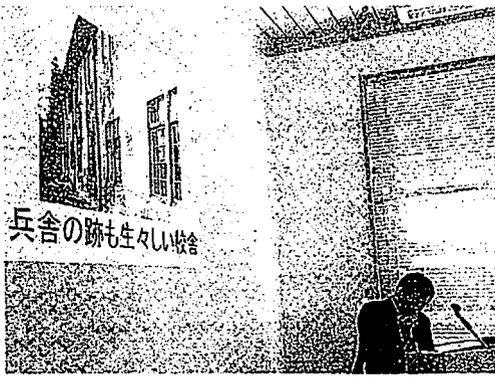
東 愛 知 新 報

# 先輩の群像 感慨深く

## 愛大で創成期振り返るスライド上映会

### 古橋さん熱弁ふるう

愛知大学豊橋校舎の「期」と題したスライド上映記念館で12日、映像で振り返る愛知大学の創成



スライド上映しながら熱弁をふるう古橋さん  
|| 愛知大学豊橋校舎の大学記念館で

が開かれ、1946(昭和21)年の創成期に活躍した先輩たちの群像を感じて振り返った。講師は陶芸家の古橋尚さん。古橋さんは「愛大に魂を吹き込んだ二代目学長・本間喜一さんの「素晴らしい人間性を紹介したくて、今回の上映会を企画した。副題は「東亜同文書院を継承した愛知大学」。古橋さんは愛知大学をドイツのベルリン大学に比し、「両大学とも、戦争への痛烈な反省を戦後の出発点とした。国際平和を愛する」という点で、愛大は日本のベルリン大学」と解説した。古橋さんが最も熱弁を

ふるったのは、本間さんのくさり本間さんの毅然とした顔写真を写しながら、本間さんは心の底から大学を愛し、学生たちをわが子のように思っていたことを紹介した。そのほか、1954年に愛大を卒業し、その後油縄、長崎などに足を運び、戦後の核問題、基地問題を精力的に掘り続けた写真家・東松照明さんについても解説した。会場の記念館講義室には大学関係者だけでなく卒業生も来場。戦後動乱期に確かな理念を持ち、現在の愛大の礎を築いた人たちの映像にじっと見入っていた。(高石昌俊)

2007年(平成19年)6月6日(水曜日)

東 愛 知 新 報

### 映像で振り返る創成期

12日 愛大でスライド上映会

愛知大学豊橋校舎で12日午後1時から、映像で振り返る愛知大学の創成期「のムント」上映会が開かれる。講師は陶芸家の古橋尚さん。古橋さんは愛知大学関係者の交流を通じて、

映像をながさずの愛大創成期について知見が深く、今回愛知大学東亜同文書院大学記念館「期」のムント上映会を企画。副題は「東亜同文書院を継承した愛知大学」。



そのうちを精々「群像」を100枚のスライドで振り返る。

会場は研究館1階の第1集会所。上映会は約1時間を予定している。入場無料。問い合わせは同センター(0533-2-47411)へ。(高石昌俊)



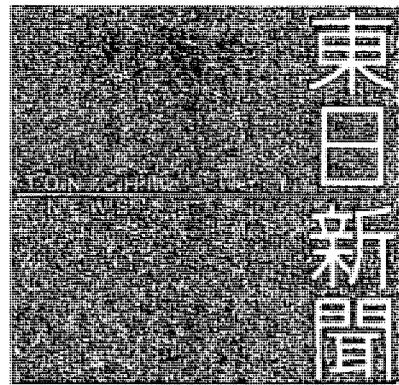
スライドで愛知大学の歴史を上映

陶芸家の古橋尚さんが12日、愛知大学豊橋校舎大学記念館で「愛知大学創成期と東亜同文書院継承の映像とナレーション」と題してスライド上映会を行った。  
古橋さんは、陶芸のかたわら伝統文化や人物の研究をしている。昨年愛大で開かれた「愛知大学・創成期の群像」写真パネル展」を見た際スライド化を思い立ち、展示会を主催した東亜同文書院大学記念センターの越知孝さんに提案して今回の上映会が実現した。  
会では約20人の参加者を前に、愛大の前身である東亜同文書院大学の設立の経緯から歴史をたどった。かつて上海にあったものの校舎の写真などをスライドで映しながら

# 東亜同文書院から愛大へ 継承の歴史スライド化

陶芸家の古橋尚氏

「日本人が外国に設立した最初の学校である」とも、敗戦で中国から引き揚げることになったとき、教師が命がけで学歴簿と成績簿を持ち帰ったエピソードなどが紹介された。



地域を笑顔に

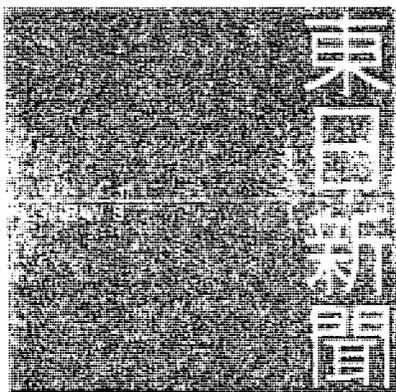
## 愛大の歴史をスライドで上映

陶芸家の古橋尚さんが12日、愛知大学豊橋校舎大学記念館で「愛知大学創成期と東亜同文書院継承の映像とナレーション」と題してスライド上映会を行った。

## 「豊橋美術展」始まる

豊橋市美術館1階で12日、「第29回豊橋美術展」が始まった。





地域を笑顔に

発行所/東海日日新聞社 TEL0532-53-2800  
〒440-0874 FAX0532-53-7222  
愛知県豊橋市東松山町90番地 http://www.tonichi.net

### 資料の展示方法など助言

豊橋市美術館の金原宏行館長と後藤清司副館長が14日、愛知大学東亜同文書院大学記念センターを訪れ、資料の展示方法などについて助言を行った。



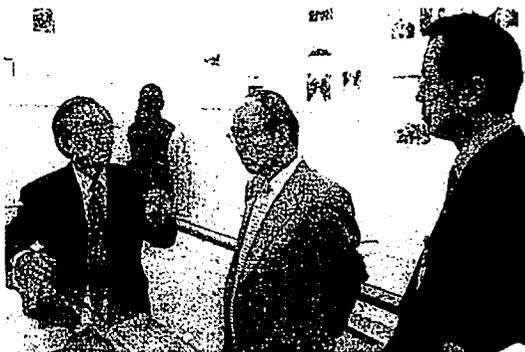
### 17日から沖縄県石垣市へ

島崎藤村の詩「椰子(やし)の実」を再現する田原市の観光イベント「愛のココナッツメッセージ PART20」で、市観光協会(会長・鈴木克幸市長)は17日から19日まで、やしの実を海に流すため「遊き島」に見立てた沖縄県石垣市を訪れる。

東亜同文書院  
記念センター

## 愛大の宝より広く市民に

### 豊橋市美博の館長らに展示法聞く



越知研究員らの説明を聞く金原館長と後藤副館長

豊橋市美術館の金原宏行館長と後藤清司副館長が14日、愛知大学東亜同文書院大学記念センターを訪れ、資料の展示方法などについて助言を行った。

越知厚さんの呼びかけで、より展示の質の高めるために専門家の意見を聞くこととなった。越知さんは最近、展示室を訪れる市民が増えていることに触れた上で「今までは愛大の宝を眠らせていた。今後ほもっと多くの方々に、地域の大学に貴重な文化財があることを知ってもらいたい」と話した。

また、同席した同大名誉教授で50年史編集委員も務めた大島隆雄さんは「展示の内容を充実させ、学芸員など人材も育成していくことが必要。将来的には大学の総合博物館を目指したい」と構想を語った。

会見の後、一行は学芸員のガイドで大学史展示室を見学して回った。金

原さんは、絵画を保護するために退色防止の照明にすることや、複製品にはレプリカの表示をする必要があることなどを指摘していた。

豊橋市美術館館長・副館長、  
本学の歴史展示をご見学

東亜同文書院大学記念センター  
佃 隆一郎

6月14日午前、豊橋市美術館の金原宏行館長および、後藤清司副館長のご兩名が、本学豊橋校舎の東亜同文書院大学記念センターを訪問された。同センターは大学記念館内の「大学史展示室」の移転、整備をこの4月に実施したが、さらに既設の「東亜同文書院大学展示室」のリニューアルと大学史展示室の二期整備を進めるために、またセンターの「友の会」を立ち上げる構想を具体化させるために、実績をあげている同博物館のご意見をうかがうべく招いたものであり、ご兩名は東亜同文書院を含めた本学の歴史に関する諸展示を、興味深くご覧になって下さった。

私は大学史展示室の案内を担当したが、学生・卒業生・学外の人と、それぞれに応じた説明が要求される難しさを改めて痛感した。展示案内の前に行なった意見交換では、センター委員より「本学に総合博物館を将来作りたい」との声もあり、私も同感だが、それまでには資料保管の徹底、各部署で行なっている展示活動の共同化など、取り組むべき課題はたくさんあろう。一歩ずつ進めていくためにも、この場を借りて皆様のご意見・ご理解・ご協力をお願いしたい。

# 友の会立ち上げへ意見交換

寄稿 武井 義和

去る4日午前、金原宏行豊橋美術博物館  
長と後藤清司副館長の2名が、東亜同文書  
院大学記念センターの招きに応じて愛知大  
学記念館を訪問し、同館内の東亜同文書院  
大学記念センター展示室を見学した。

愛知東亜同文書院  
大学記念センター

## 豊橋美術 館長ら招く

中国革命の父・孫文や  
愛知大学の歴史に関する  
資料が展示されている同  
記念センターでは今後、  
友の会を立ち上げる計画  
をもっており、豊橋美術  
博物館長や副館長の2名  
を見学伺いを目的とし  
たものである。

友の会のあり方につい  
て、30分近く館長らの話  
を聞き、意見交換したあ  
と、館長と副館長は展示  
室を見学し、係員の説明  
を熱心に聞いた。所蔵資  
料の保管のあり方の問題  
や展示されている原典資  
料の劣化をいかに防ぐか  
という保存の問題、そし  
て参観者の視点から見や  
すい展示方法などについ  
てさまざまな意見が出  
された。

係員や学内関係者は今  
後の活動に生かそうと、  
館長・副館長から出され  
る意見を、丹念にメモに  
取っていた。  
(愛知大学東亜同文書  
院大学記念センターホス  
ト・ドクター)



越知専記念センター客員研究員(中央)の説明を  
聞く金原館長(左)と後藤副館長。後ろは大島隆  
雄記念センター客員研究員



⑨ 6月24日(日) 2017年(平成29年) 東日新聞

グラフ特集

# 秋、故本間名譽学長コーナー登場

愛知大学東亜同文書院大学記念センター  
 大学記念センターは、2006年5月に文書院学舎の平成18年度創立25周年記念事業として、学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター）整備事業により建設された。

それに伴い、昨年7月から今年3月にかけて計7回の講演会・研究会のほか、シンポジウムなどを実施。国内外の研究者や学識経験者などを同大学の前身である東亜同文書院の歴史などについて講演を交わされた。

昨年度には、愛知県100周年を記念した「近代愛知の歴史を語る人々」の1人の一人に故本間二名学長が選出され、8月から9月にかけて市内の各所でパネル展が行われた。

また、11月10日から16日まで、昭和56年度のメモリアル・スペース、

## 歴史の歩みたどる多彩な催し続く 愛知大学東亜同文書院大学記念センター

創立100周年記念事業「パネル展」愛知大学創成の歴史・地版と共に60年を飾る。林毅隆、本間二名、小宮井伸など大学の創設期を支えた教授陣の活躍をはじめ、1952年の愛大事件、山室徳四郎の就任経緯などが、これまでの大学の歴史を45枚の頁とパネルで紹介した。

4年1月19日には大学史資料室を改築し、大学史資料室A館・B館としてリニューアルオープンした。

秋以降には新たな歴史を築き、本間二名学長のコーナーを開講する予定。生い立ちから判事、東亜同文書院一編大、教授、東亜同文書院学長、初代原高政事務局長、愛知大学学長としての経歴に彩られた生涯、遺品などの展示を通じてたどる。



パネル展に訪れた原川勝・愛知県長（昭和41年）と本間二名学長の長女・原岡早生さん



原岡工業社長・松浦元昭氏（昭和34年）と本間二名学長の長女・原岡早生さん



秋以降は新たな歴史を築き、本間二名学長のコーナーを開講する予定。生い立ちから判事、東亜同文書院一編大、教授、東亜同文書院学長、初代原高政事務局長、愛知大学学長としての経歴に彩られた生涯、遺品などの展示を通じてたどる。



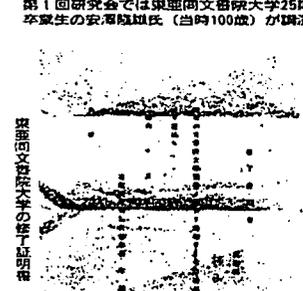
第1回研究会では東亜同文書院大学25周年記念の安藤敏雄氏（当時100歳）が講演



パネル展の制作の様子を見学に来た兩部中学校の生徒たち



竹内勇氏は60年間の愛知大学の歴史を描いたスラッシュと油絵を制作



東亜同文書院大学の歴史を証明



文庫地区の中心に位置する愛大には、多くの市民が気軽に訪れる



手づくりにこだわったパネル展



シルバーカレッジの受講生たちも大学史展示室を見学



手づくりにこだわったパネル展

**愛知大学**  
AICHI UNIVERSITY

**東亜同文書院大学記念センター**  
**オープン・リサーチ・センター事業**

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 TEL0532-47-4139 / FAX0532-47-4196

# 東亜同文書院

# 日中で歴史検証

## 中国側研究者招きシンポジウム

きょう 愛知大で

日本初の海外高等教育機関として、戦前に中国・上海に設立された東亜同文書院の歴史的な位置付けについて、中国側研究者を交えた初のシンポジウムが28日、同校を前身とする愛知大学の豊橋校舎記念会館（愛知県豊橋市）で開催される。同校は戦後、「スパイ養成学校」だったなどとして、中国側から敵視される時代が続いたが、最近ようやく中国研究や日中友好に果たした役割に、客観的な評価が始まった。



東亜同文書院が借用していたころの上海交通大学

シンポジウムは、上海交通大学を中心とする中国側研究者6人と、藤田佳久・愛知大教授ら日本側5人が参加する。東亜同文書院は1901年、日中貿易の栄華を育成しようとして上海に設立され、敵視や閉鎖した。軍閥割拠の時代を生き、毎年、中国国内の調査旅行を実施して貴重な資料を残したほか、孫文の中国革命に投じる者も出た。

しかし、日中戦争の中で、卒業生が日本軍の通訳となったことなどから「スパイ養成学校」と評価された。第2次上海事変37年で校舎を焼失し、当時は空襲被害にあった隣接の上海交通大学

を借用したことも、日本による不法占拠との根強い反発を招いてきた。

今回のシンポジウムは、3年前に愛知、上海交通大学の研究者らで「史実共同研究会」が発足したのがきっかけとなった。昨年末、上海で開催された報告会では、「書院の通動会と交通生も参加していた」となどの友好史も明らかになった。

藤田教授は「日中のイデオロギイが異なる時代もあったが、史実をベースに研究を深め、友好に生かしたい」と話している。

愛知 2007年(平成19年)7月29日(日曜日)



シンポジウムには大勢の市民も参加

### 「東亜同文書院」役割考える

愛知大学豊橋校舎でシンポジウム

戦前、中国・上海に設立された東亜同文書院の果たした歴史的な役割などについて考える初の国際シンポジウムが28日、豊橋市町畑の愛知大学豊橋校舎記念会館で開かれ、約2000人の市民らが参加した。

東亜同文書院は同大の母体になった日本初の海外高等教育機関。1901年の設立から45年の終戦で閉鎖されるまでに、約5000人の卒業生を輩出。日中の経済、文化的な交流に大きな役割を果たした。

シンポジウムでは、戦前から東亜同文書院と深いつながりがあった上海交通大学など、その記録は「東亜同文書院大旅行誌」（全33巻）として出版され、上海師範大の日本人研究者5人が「東亜同文書院と中国研究」などのテーマで講演した。

研究者らの評価が高かった「研究と活用を図る必要がある」と指摘。さらに、「職業調査旅行。44年間の間に、争いという不幸な時代もあったが、新世紀に生かすための手帳を、地理、経済、政治、アジア振興の協力関係を構築する」と述べた。

12版広域 2007年(平成19年)7月18日(水曜日)

愛知大学東亜同文書院大学記念センター  
国際シンポジウム

**日中研究者による  
東亜同文書院研究**

7月28日(土) 10時~17時

●定員200名(先着順・定員になり次第締め切り)

愛知大学豊橋校舎記念会館

■(ネリスト)(下記他8名)

藤田佳久教授  
(愛知大学大学院長・東亜同文書院大学記念センター長)

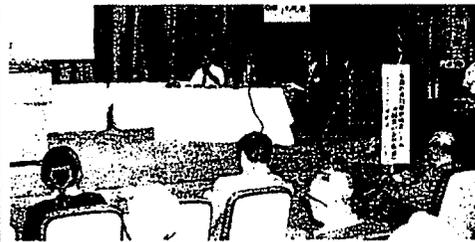
「東亜同文書院と中国研究」

薛智良教授(上海師範大学歴史学部主任)

「歴史から経緯と教訓を得る」

申込み/お問合せ  
愛知大学東亜同文書院大学記念センター  
〒41-8522 愛知県豊橋市町畑1-1  
メールアドレス: tchiich@ml.aichi-u.ac.jp  
TEL:0532-47-4139 FAX:0532-47-4196

# 新たな日中交流へ



中日共同研究について語る東・上海交通大教授(左上中央)愛知大で

## 愛大で東亜同文書院シンポ 中国から研究者6人

愛知大東亜同文書院が主催する「東亜同文書院シンポジウム」が28日、同院講堂で開かれた。中国から6人の研究者が参加し、中日共同研究について語り合った。シンポジウムは、同院のシンポジウムシリーズの一環として行われ、今年で10回目を迎える。今年も中国から6人の研究者が参加し、中日共同研究について語り合った。シンポジウムは、同院のシンポジウムシリーズの一環として行われ、今年で10回目を迎える。

愛知大東亜同文書院が主催する「東亜同文書院シンポジウム」が28日、同院講堂で開かれた。中国から6人の研究者が参加し、中日共同研究について語り合った。シンポジウムは、同院のシンポジウムシリーズの一環として行われ、今年で10回目を迎える。

### 中日共同研究について語る東・上海交通大教授(左上中央)愛知大で

愛知大東亜同文書院が主催する「東亜同文書院シンポジウム」が28日、同院講堂で開かれた。中国から6人の研究者が参加し、中日共同研究について語り合った。シンポジウムは、同院のシンポジウムシリーズの一環として行われ、今年で10回目を迎える。

## 書院通じ日中関係を考える

### 両国研究者10人が講演

愛大でシンポ



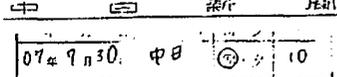
愛知大東亜同文書院が主催する「東亜同文書院シンポジウム」が29日、同院講堂で開かれた。中国から6人の研究者が参加し、中日共同研究について語り合った。シンポジウムは、同院のシンポジウムシリーズの一環として行われ、今年で10回目を迎える。

愛知大東亜同文書院が主催する「東亜同文書院シンポジウム」が29日、同院講堂で開かれた。中国から6人の研究者が参加し、中日共同研究について語り合った。シンポジウムは、同院のシンポジウムシリーズの一環として行われ、今年で10回目を迎える。

東亜同文書院の「イ・サ・シ」シンポジウムが27日、同院講堂で開かれた。中国から6人の研究者が参加し、中日共同研究について語り合った。シンポジウムは、同院のシンポジウムシリーズの一環として行われ、今年で10回目を迎える。

年月日	新聞名	朝・夕	ページ
07年6月26日	中日	朝・夕	13

愛知大東亜同文書院が主催する「東亜同文書院シンポジウム」が27日、同院講堂で開かれた。中国から6人の研究者が参加し、中日共同研究について語り合った。シンポジウムは、同院のシンポジウムシリーズの一環として行われ、今年で10回目を迎える。



東亜同文書院の「イ・サ・シ」シンポジウムが27日、同院講堂で開かれた。中国から6人の研究者が参加し、中日共同研究について語り合った。シンポジウムは、同院のシンポジウムシリーズの一環として行われ、今年で10回目を迎える。



### 寄稿

愛知大学公開講座は9月29日、愛大盛岡校舎で開かれた。

講師は、同文書院大学最後の中国籍の先生で愛大設立以来の池上貞一名誉教授(88)。

呉羽分校の清算事務処理を行った池上先生の「生の声」を聞いた。

この講演は、愛大の同文書院大学記念センター・オープンリサーチセンターとして貴重な記録とするためのビデオ撮影も行われた。

以下は池上先生の講演の要旨である。

「海を渡れなかった書院生たち」といって、昭和20年4月に終戦、16日から休業の第46期生は、上校となり、学生たちは17日の副題でもある。海へ渡ることができなかった。10月15日、主務官庁の同文書院大学の先(外務省吉田茂外相)

### 東亜同文書院大学呉羽分校願末

### 海を渡れなかった書院生たち

生は、全国津々浦々か、炭が副社長をしていたの許可で授業再開する。富山県呉羽郡呉羽紡績も、1カ月後の11月15日に落ち替ることになる。日、外務省の授業方針も不明の中で、経営財源のメドもたえず、食糧事情も困難を極め、開校した。12月6日、占領軍司令部より同文書院の閉校が決定された。12月6日、占領軍司令部より同文書院の閉校が決定された。12月6日、占領軍司令部より同文書院の閉校が決定された。

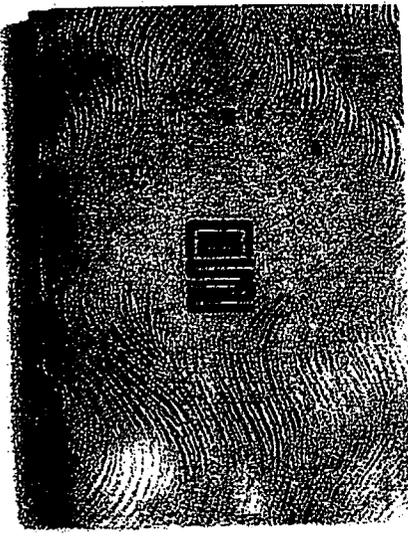
戦中は呉羽航空機工場として、学徒動員の体制下であり、授業も閉校した。12月6日、占領軍司令部より同文書院の閉校が決定された。12月6日、占領軍司令部より同文書院の閉校が決定された。



講演者の池上貞一氏



講演内容をビデオ撮影風景



8月1日の富山市の空襲で学生救済隊を組織して市民を援護、15日に終戦、16日から休業の第46期生は、上校となり、学生たちは17日の副題でもある。海へ渡ることができなかった。10月15日、主務官庁の同文書院大学の先(外務省吉田茂外相)にストップされ、外務省からの囚名を受けた同文書院から呉羽分校の閉鎖通告を受けた。12月25日、池上貞一、同文書院46期生全員はついに上海に行くとができなくなった。

「海を渡れなかった書院生たち」といって、昭和20年4月に終戦、16日から休業の第46期生は、上校となり、学生たちは17日の副題でもある。海へ渡ることができなかった。10月15日、主務官庁の同文書院大学の先(外務省吉田茂外相)

講師は、同文書院大学最後の中国籍の先生で愛大設立以来の池上貞一名誉教授(88)。

この講演は、愛大の同文書院大学記念センター・オープンリサーチセンターとして貴重な記録とするためのビデオ撮影も行われた。

スポーツ・教育・文化

寄稿

愛知大学創設者、本間喜一先生を記念する歴史展示が、愛知大学東田同文書院大学記念センターの1階に新設される。

本間喜一記念展示室を新設

越知 専

時、豊橋市は「近代豊橋の歴史を彩る人々」として21人を選んだ。その中で、学者・教育の分野では唯一人、本間喜一先生が選出された。「陸軍跡地に市内最初の大学である旧制愛知大学を創立し、創始期の大学の拡充に尽力した」とある。並米の町、軍部の町から、文化都市に誇りしたのが本間先生であるという。古くから、東は早稲田

でキリスト教主義の教育を掲げる新島塾と伝えられていたが、豊橋市制100周年以来、本間喜一氏の名前が浮き彫りにされるようになった。

明治24年生まれの本間先生は、大正4年、東京帝國大学法科を卒業後、司法官補になり、検事・判事を経て、大正9年、最高裁判所初代事務総長、昭和25、30年、愛知大学第2代学長、昭和34、38年、第4代学長、昭和38年には愛知大学唯一の名譽学長となった。以来、昭和15年に愛知大学の前身、陸軍大学校となり、昭和16年に愛知大学と改称して愛知大学を創生させた。



「新しい」パネルが、開原から愛知の世原へ」代「愛知大学時代」厳父として慈父として」のタイトルで、本間先生の経歴を時代別に紹介している。

今回展示するものは本間家所蔵の遺品であり、それぞれの時代において本間先生のエピソードにかかわる物証や、燭台、ステッキ、カバン、実印、メカネ、印籠（いんろう）などの愛用品を展示する。また、戦後戦時代の豊橋をめぐり、三洲志摩初代長官で、一町おまじり東大からの親友である田中耕太郎、代長官との関係を如実に表す貴重な資料も展示する。

（愛知大学東田同文書院大学記念センター書院 研究員）





# 愛大創設者・本間氏の功績を後世へ

## 記念館に「コーナー」新設

越知 専

「東は、大隈篤信の早稲田・福沢諭吉の慶応義塾、西は、新島襄の同志社」という認識が世間にある。しかし、中部を代表する愛知大学の創設者・本間喜一に対する認識は薄い。

本間氏は昭和15年、愛大の前身で中岡・上海にある東亜同文書院大学へ渡った。昭和19年学長に就任し、敗戦にともない東亜同文書院大学を閉校して日本に帰る。

昭和21年、海外の大学

の教授・教職員と共に愛大を創設し、22年には最高裁判所初代事務総長となった。昭和34年、愛知大学長となり、昭和38年に愛大唯一の名譽学長となった。

本間氏は終身障となり日向となって愛大を受け継いだ。だが、世代交代の中で本間氏の功績を知る市民や教職員が少なくなっていた。

「本間喜一の生い立ち」では、終身障となり日向となって愛大を受け継いだ家族の写真、小学校1年生の次男・昌郎の書いた父本間氏の似顔絵など▽「学究時代」コーナーでは、一高・東大、一橋大学、検事、判事、裁判官時代、商法小切手法の講義書(大正14年)や「判決文」▽「東亜同文書院時代」コーナーでは本間氏の次男が書いた昭和15年頃の上海の庶民生活や街の様子。本間氏が養母夫人に宛てた家族への思いやりの短歌のハカキ。東亜同文書院閉校引揚事情の報告書など貴重なものがある。

「最高裁判所時代」コーナーでは最高裁判所初代長官や2代目田中耕太郎氏との関係図や、本間氏の「事務総長報告書」、文化協会文化賞▽「人間・本間喜一の遺品」コーナーでは第二次世界大戦を象徴する林樹隆及掛軸、愛用の短歌、メッキやメカネ、村やフエミンガなどを展示▽「愛知大学時代」コーナーでは設立時の写真、資金集めで各市町村長や有識者への高附依頼書(愛知大同文書院で「コーナー」が設け

### 寄稿



「愛知大学創設者・本間喜一」が設け



打ち合わせの(左から)越知専研究員、武田照信学長、殿岡辰子(本間喜一氏長女)さん、藤田佳久センター長、山本明事務局長



内閣

本間喜一  
愛知大学事務総長  
一級に叙する

内閣総理大臣片山哲

昭和十五年九月十日

愛知大学事務総長

愛知大学事務総長

スポーツ・教育・文化

奇稿

10月8日、三浦南信サミット住民セッションの実行委員会が、愛知大学芸術キャンパスで開かれた。

「住民セッション」は、住民団体による活動発表により、住民への交流・連携のきっかけを探りながら、三浦南信地域の魅力や可能性を再認識するとい

「住民セッション」に参加して

武井 義和

「住民セッション」は、住民団体による活動発表により、住民への交流・連携のきっかけを探りながら、三浦南信地域の魅力や可能性を再認識するとい

を午前11時から1時頃にわたり見学した。また、「本間先生愛用の、林則徐の掛け軸を見せたい」とい



東亜同文書院センターで説明を受ける南信の皆さん

奇稿

愛知大学東京事務所が、臨川閣コンクリート西館に移転、愛知大学の情報発信や同窓会活動が一段と活発になる。

東京・飯が岡3丁目南地区再生プロジェクト、官民連携新設山ビル37階に霞山(近衛篤麿の雅号)会館が完成し、同時に愛知大学の東京事務所として新設移転した。その記念式が、10月27日午後1時30分から同所大会議室で開かれた。

武田信昭学長は「霞山

情報発信などさらに活発に

愛大東京事務所が移転

会館の移転によって、霞山ビルは、東京と中京との間では、東京事務所山会館を準備することが、もに世界に発信するチャームポイントとして、東亜同文書院大学の歴史や文化を伝える役割を担うことになる。また、東亜同文書院大学の歴史や文化を伝える役割を担うことになる。また、東亜同文書院大学の歴史や文化を伝える役割を担うことになる。



記念式典であいさつする武田信昭愛知大学学長



2007年(平成19年)11月2日(金曜日)

# 愛大創立者の本間喜一氏紹介

## 豊橋校舎にコーナー完成

愛知大学創立者の本間喜一氏を紹介するコーナーが、愛大豊橋校舎の大学記念館(旧本館)に完成し3日、オープンする。約50点の資料で学生時代から、愛大卒業後時代までの活躍を紹介する。

本間氏は愛大の?、4代学長で、大学設立で中心的な役割を果たし、私財を投げ打って大学の発展に貢献した。愛大に関わる前は裁判官、中岡上海の東亜同文書院大学学長などを歴任した。

展示室の広さは約30平方メートル。本間氏の著作「手形法」の複製品をはじめ、裁判官時代に書いた判決文、書院時代の引き揚げ記、緑竹の複製品が並ぶ。またステッキ、帽子、実印めがねなど、本間氏の愛用品も展示されている。

1日は内覧会があり、大学史を学んでいる名古屋校舎の学生が訪れ見学した。



本間氏の偉業を振り返る展示室＝愛知大学記念館で

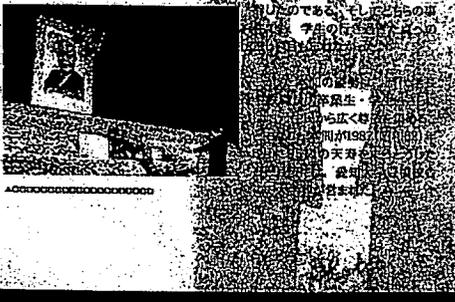
もらいたいと話している。平日の午前9時半から午後4時半まで見学できる。問い合わせは愛大東亜同文書院大学記念館(〒464-0802)へ。(竹下貴信)

### 愛知大学時代 ～厳父ぞして慈父～

oooooooooooooooooooo

1946(昭和21)年春に上野より帰国し、その年のうちに愛知大学を創り上げた本間喜一は、最高経営責任者として1950(昭和25)年、林毅雄初代学長の逝去を受けて愛知大学第2代学長に就任した。さらに学長を小野井洋に譲渡したのち、小野井の急逝を受けて1955(昭和30)年に第4代学長として復職した。1963(昭和38)年の学長解任まで、本間おとび愛知大学が重大な試練に直面したことについての詳細は、展示室A・Bにある「愛大事件」「禁煙局遺囑事件」などのコーナーを参照されたい。ここではそれら事件・事象に対する本間の姿勢として、「プレイ・フォー・ジャスティス(正義に對して勇戦であれ)」の信念のもと、誠実かつ毅然とした対応をつとめたことを強調しておきたい。

すなわち本間氏は、愛大事件1952(昭和27)年では、「私が今後めら、愛大が破産になつてしまふ」として学長を辞することにはせず、学生を守るために弁論士に四登壇し、21年に及んだ裁判に一度も休まなかった。また、禁煙局事件1963(昭和38)年では、「大学がつぶれても学生を救し出す」として自決の覚悟に立上ったが、「天賦の地獄にも引かれない」として学長を退任した。そして1965(昭和40)年の学長解任後、1967(昭和42)年に「天賦の地獄にも引かれない」として学長を退任した。

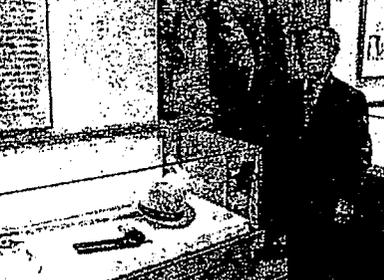


本間氏の偉業を振り返る展示室＝愛知大学記念館で

### 愛大に創設者のコーナー開設 愛用品や生い立ち紹介

愛知大学の創設者で名譽学長の本間喜一さん(1891-1988)の生い立ちや愛用品などを紹介するコーナーが、豊橋市町の同大記念館に開設された。

本間さんは山形県出身。愛大設立のときは資本金



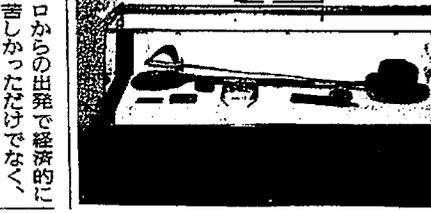
愛大記念館に開設された本間名譽学長のコーナー(立つているのは館長さん)

東亜同文書院大学を卒業後、検事、弁論士として活躍。同大の前身・東亜同文書院大学の教授を務め、46年、豊橋市に愛大を設立するのに関与。同大の第4代学長を務めた。

愛大記念館に開設された本間名譽学長のコーナー(立つているのは館長さん)

愛大記念館に開設された本間名譽学長のコーナー(立つているのは館長さん)

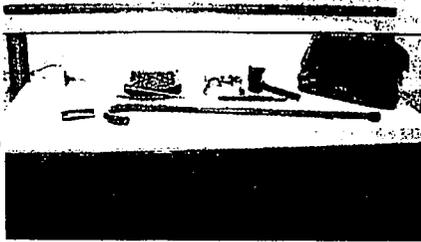
愛大記念館に開設された本間名譽学長のコーナー(立つているのは館長さん)



愛大記念館に開設された本間名譽学長のコーナー(立つているのは館長さん)

クラブ特集

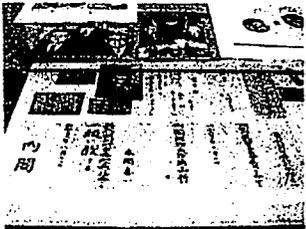
AMERICAN SCIENCE



愛知大学科学博物館の展示室



# 名誉学長「本間喜一の展示室」開設



本間氏の輝かしい経歴も展示が教えてくれる



探訪地獄山幸七の説明は興味深々と名古屋三軒キャンパスで愛知大学史を学ぶ学生30人、バスを貸し切って実地勉強



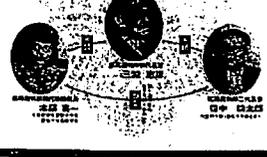
愛知大学史について館長氏から話を聞く山本明彦代議士夫人・洋子さん

## 愛知大学裁判所事務総長時代

愛知大学裁判所事務総長時代

愛知大学裁判所事務総長時代

愛知大学裁判所事務総長時代



## 最後の法曹界の重鎮3人（三淵、田中、本間氏）の関係



愛知大学史について館長氏から話を聞く山本明彦代議士夫人・洋子さん

5年ほど前、愛知大学裁判所事務総長が、11月、日曜日にバスを貸し取り、時空を越えて愛知大学史を学ぶ学生30人を、名古屋三軒キャンパスで愛知大学史を学ぶ学生30人、バスを貸し取り、実地勉強

愛知大学史について館長氏から話を聞く山本明彦代議士夫人・洋子さん

愛知大学史について館長氏から話を聞く山本明彦代議士夫人・洋子さん

愛知大学史について館長氏から話を聞く山本明彦代議士夫人・洋子さん



# 愛知「未来」を輝く太陽」をみるなる先へ

**愛知大学** 東亜同文書院大学記念センター  
 オープン・リサーチ・センター事業  
 ◆展示資料室に音声ガイドシステムを設備しています。  
 〒441-8522 愛知県豊橋市市畑町1-1 TEL0532-47-4139 / FAX0532-47-4196



2007年(平成19年)11月22日(木曜日)

東 愛 学 刊

寄稿

豊橋市教育委員会と愛知大学主催の2007年度豊橋市民大学トラム・愛知大学連携講座「近代史の中の東亜同文書院と愛知大学」の最終講義が、17日愛知大学豊橋校舎で開かれた。



講義中の大島隆雄経済学博士

市民トラムは豊橋技術科学大学、豊橋創造大学、愛知大学が連携して、それぞれの大学の特色を生かしたテーマで、豊橋市民の文化向上を図るものであり、1997年から始めている。毎年受講者を募り、50人から多い時は講師に選定して行った。

初回、10月6日は藤田佳久センター長(文学部)を講師に選定して行った。

近代史の中の東亜同文書院と愛知大学

最終講義を終えて

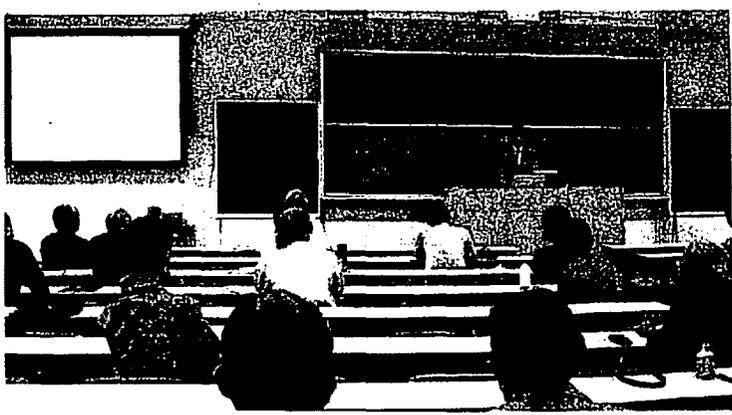
越知 専

10月13日は馬場毅センター長(愛知大学名誉教授)を講師に選定して行った。10月26日は山田兄弟(10月26日は武井義和センターポストドクター「展示室での講義と見学」と題して「大

展示室の開催は月曜日から金曜日(午前9時半〜午後4時半)、土・日曜日は愛知大学総務課に予約申し込みをするグループには案内説明が可能である。問合せは053-2-47-4111まで。

「東亜同文書院の」の司会が始まり、大島は「大学史には光と影がある。光だけをとりえる」と「ええとだけ」の物語になってしまふ。影の部分を目撃し、いかにそれを克服するかによって立派な大学史になる」と大学史に対する所見を語った。司会者からお礼の言葉、受講生から

最終回、17日は愛知大学企画広瀬水野玲子(経済学)を講師に選定して行った。10月27日は武井義和愛知大学「東亜同文書院が」を見た近代の日本と中国、10日は石田生七(10日は石田生七)を講師に選定して行った。





### 寄稿

いま全国に国公立・私立大学が56校あり、短大は134校もある。人口10万人以上の都市が218市、ひとつのまちに数校の大学が併存することになる。

## 「愛知大学の原点を知る愛大生」

### 越知 専

自分の強固な意志や希望により、なかには偏見他により、大学が決められる。「本学入学者」もいると語り、そこで大学のアイデンティティ確認のための方策がいろいろとあると見ている。昨年は名古屋(一好)校舎

を別するために、大学全体の歴史を知るのが近道である」と語る。

「中世ヨーロッパの人文の起源や、ドイツにおける近代大学の誕生を究める近代大学の歴史を物証を通じて解説を受け、講義「白出愛知の源」、愛知大学創立以来の「中部地方

スケールの大きい教育者本間三郎名譽学長の歴史を「自分の居場所を再発見」したようだ。

その後「哲学の森」

「愛知大学東部同文書院大学記念センター客員

で、本年春から豊橋校舎で共通教育科目として「大学史」の講座が開講された。「諸君が入学した大学はどのようなところだろうか。大学の意味やその社会的存在意義」

「愛知大学の前身11月3日オープンした「愛知大学創設者・本間三郎名譽学長歴史堂」を視学した学生は「すごい大学だ」と驚いていたようだ。法曹界の重鎮として、また人間味あふれる

「愛知大学東部同文書院大学記念センター客員



愛知大学東部同文書院大学記念センター客員



田隆一郎講師(左)から大学史の講義を聞く名古屋三好キャンパスの学生たち

2007年(平成19年)11月28日(水曜日)

# 人柄映す手紙や写真

## 愛大名誉学長 本間喜一氏の遺品展示

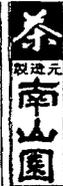
豊橋校舎

愛大東亜同文書院記念

愛知大名誉学長の本間喜一氏(一九一一年〜一九九一年)の遺品約五十点を集めた展示室が、豊橋市の愛大豊橋校舎の大学記念会館に設置された。

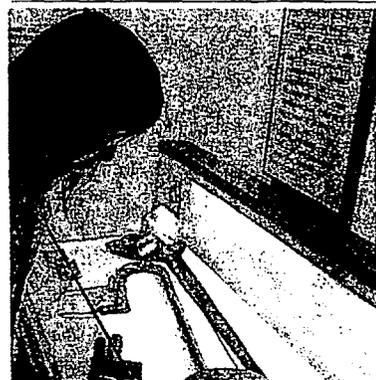
本間氏は愛大の前身で、戦前、中岡・上海にあった東亜同文書院大の学長となり、終戦後は愛大を創設し、約十年間務めた。後に名誉学長となった。

展示品は遺族から譲り受けられた物が多く、愛用の



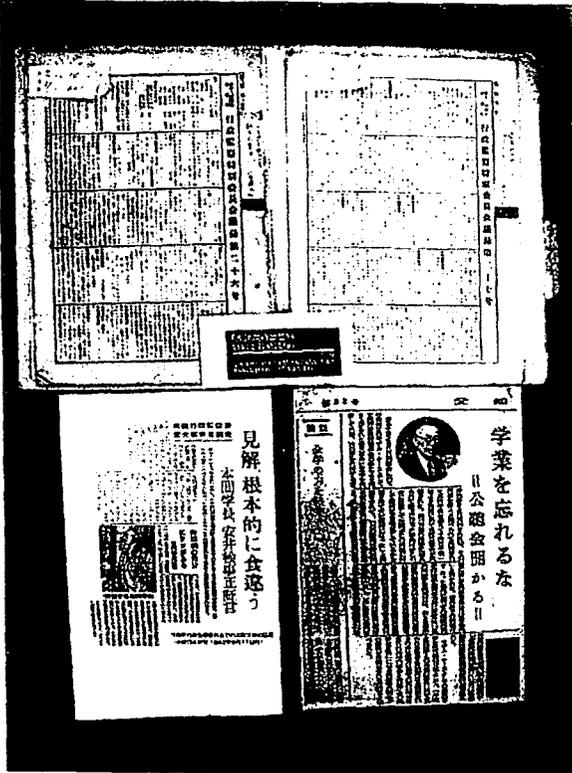
本間喜一氏

六一年に「ヘイタイサン」に入社し、同社で二十一年間勤務した。同社が倒産した後は、一時の情勢を記した日本の長女あての手紙や、学生との集まりもあり、本間氏の人柄がしのばれる。



センターの越知専さん(左)は「あまり知られていない本間氏の功績や人柄を知ってほしい」と来場を呼び掛けている。平日に開催しており、入場無料。

本間喜一氏の遺品が並んだ展示室。豊橋市の愛知大豊橋校舎で。



13 11月6日(火) 2007年(平成19年) 第3種郵便物認可 東日新聞

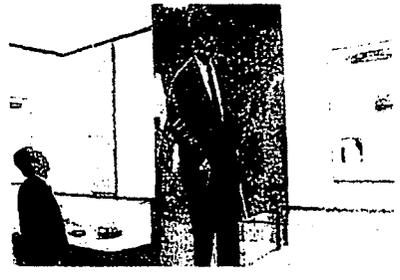
# 功績と、その歩み知って

## 大 本間喜一学長展示室を公開

愛知大学(武田信照学長)は、豊橋校舎旧本館の記念館に本間喜一学長の展示室を完成、11月から公開した。記念館には、愛大東亜同文書院大学記念センターが入っており、同文書院時代から100年の歴史を紹介する展示室が整備されている。

本間学長は、中国の上海にあった同文書院大学最後の学長で戦後、愛大創立に奔走、持ち帰った学統簿を元に学生と教職員を集め、46(昭和21)年に開学した。愛大の第2代、4代学長を務めた。

### 本間学長の功績と歩み知って



展示室には、山崎昭とに飾られている。その山崎昭は、高帽、ステッキ、めがねを愛用した。本間学長の功績と歩みを知ってほしい。本間学長の秘蔵品を飾った山崎昭が、日中戦争が始まった山崎昭で大学に昇格した同文書院の学部開設実現などを当時の資料で振り返る展示になっている。

同文書院大学記念センターの藤田洋久教授は「本間先生の功績とその歩みを集約的に示すため、地域の皆さまにもお伝えしたい」と開設した」と同展示室のあいさつ文で述べている。

めだ殿園藤子氏から提供された。

展示品は、酒国時代に英国とのアヘン戦争の引き金になったアヘン抽収を断絶し、國を守ろうとした政治家・林則徐直筆の謝詞がガラスケースに収められている。愛国精神と正義を貫いた林則徐を敬愛していた。

大正4年、東京大学法科卒で検事、判事務の裁判所初代事務局長を37(昭和22)年から最高裁判所初代事務局長を39(昭和14)年から務めた。

本間氏は足跡や検事判事時代、日中戦争が始まった山崎昭で大学に昇格した同文書院の学部開設実現などを当時の資料で振り返る展示になっている。





# 地図や切手、写真並ぶ

## 愛大車道校舎で天津資料展

東亜同文書院大学  
記念センター

愛知大学東亜同文書院 争中に同国天津市に居留  
大学記念センター(藤田 した関係者が集まり、  
佳久センター)は、こ 同鑑賞会の近藤代表が案  
のほむま屋の車道校舎 めた当時の天津の地図  
で「天津資料展」を 絵はがき、路面電車路線  
演説」を開催した。 図、切手、貨幣、証明書  
愛大の前身、中區上 や写真など1000点近  
海に終戦まであった東亜 資料に見入った。  
同文書院大学と同国の歴 自分が通学で乗った路  
史を極端、研究する同セ 面電車、生活した租界の  
ンターが、初めて外部団 居留地の場所、懐かしい  
体である天津資料鑑賞会 写真や証明書を指差しな  
(近藤久義代表)との協 ながら、租界と安全だった  
賛事業を開催した。 時代の租界地での生活を  
会場と同校舎には、戦 思い出していた。

講演は、同センターの  
ポストドクター・武井 和氏が「近代中国の租界  
地における日本人社会・  
上海との比較」のテーマ  
で話した。租界地は、1  
939年に天津で1万5  
575人、上海では、5  
万1903人の人口だっ  
た。  
資料を揃供した近藤代  
表は75歳。「昔日天津、  
今日天津」「天津を愛し  
百年、そして子々孫々」  
などの言葉を著してい



懐かしそうに天津の地図や写真に見入る参加者



⑤ 12月18日(火) 東日新聞

寄稿

世界に向け「光」を発信

東亜同文書院を前身とする慶知大学

「光」を発信する。それは、世界に向けて。東亜同文書院を前身とする慶知大学は、創立100周年を記念して、世界に向けて「光」を発信する。その「光」は、東亜同文書院の歴史と文化、そして慶知大学の未来と希望を伝える。この「光」は、世界中の人々に届くように、様々な形で発信される。その一つは、国際的な交流と協力を促進すること。もう一つは、教育の質を高め、社会に貢献すること。この「光」は、東亜同文書院の歴史と文化、そして慶知大学の未来と希望を伝える。この「光」は、世界中の人々に届くように、様々な形で発信される。その一つは、国際的な交流と協力を促進すること。もう一つは、教育の質を高め、社会に貢献すること。

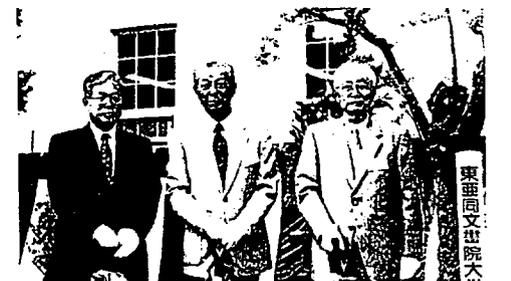


非田第一慶知大学名誉学長授贈録写式の近藤隆彦氏



研究発表をする大島雄博博士

大島雄博博士の研究発表の様子。彼は、東亜同文書院の歴史と文化について詳しく説明し、慶知大学の未来について展望を述べた。彼の発表は、聴衆の大きな関心を集めた。大島博士は、東亜同文書院の歴史と文化について詳しく説明し、慶知大学の未来について展望を述べた。彼の発表は、聴衆の大きな関心を集めた。



第3種郵便物認可

寄稿

中国・天津市の南開大学歴史学博士・周徳喜さんがこのほど愛知大学で開かれた東亜同文書院・愛知大学史研究会(大島隆雄名誉教授主宰)で「中国における東亜同文書院の研究の現状」を発表した。

母院についての歴史を学び、その関心を深め、2006年に歴史学博士を取得した。中国上海の東亜同文書院が「日本帝国主義のもとで文化的侵略を行なっていた」と大旅行などの調査で情報を日本国に抱

大革命」以前の1964年頃のペンネーム「吉原」による小説文しかなった。2007年に行われ、藤田センター長が東亜同文書院研究のポイントを指摘した。「日中国際シンポジウム」が「東亜同文書院は日中関係の問題と院は性質が独特で、教育として取り上げられるが、

文化的侵略に関与したのか

中国歴史学者から見た東亜同文書院

越知 専

愛大東亜同文書院センター(藤田佳久センター)の専任の一環で、書院について、各方面から考察するもので、今回は中国の歴史学者から見た見解を発表したもの。

周さんは南開大学で修士学位、愛大には1995年から1年間、今夏は太郎名教授の指導で「中日関係史」を研究。中日辞典編纂や東亜同文書院について、対日侵略戦争に直接間接的に協力していた」という。

東亜同文書院での研究は1980年代の荒尾精氏や根津一院長の紹介程度であって、「中国文化

目的は日本の中国通を育て、東亜同文書院の設立背景をみる。こんな培養方法を中外の教育歴史ではあまり見えない」と「中国侵略に直接間接に関係する」という図式があった。ついでに中日戦争に反対するに反対する」というオリエンタリズムという発想の書院学生や教育者もい

がそこにはあった。東亜同文書院研究は日中だけでなく欧米も含めたよりスケールの大きな視点から検討するべきであり、現状の研究はその点が欠けているのではないかと指摘で、この意見に周さんは「大変貴重な指摘であり、今後の研究に生かしていきたい」と答えた。

また、「同文書院研究記念センター」が研究の



周徳喜さん

# 愛知大学草創期の逸話

## 本間喜一先生の人柄偲ぶ

「愛知大学の各はびく世間知られてゐるが、東海同文會院や本間喜一氏はあまり知られてゐない。」

ある新聞の某支局長がその部下の記者に、「記事がなかったら愛大へ行け」とニューズの記事を付金を要した。

### 寄稿

「赤い学校」と呼ばれて寄付金が滞ってしまつた。「赤い学校」ではない。地元の出身の元校長が「赤い学校」の甲斐を言つた。本間喜一先生を偲びつつ窓風の井出を食へるセンターのメンバー。

か)に対し、本間喜一先生は「よく事情は分かりませうが、去年の秋、徳田君(元・元徳田市長)からの話、どうも学校が赤いものだから金の集まりがよくない」といふことを言つておりました。そんな折、豊原井出部

の先々代松尾元一さんが約束の寄付もホトにせず果たしてくれなかつた。

本間喜一氏は、(敬告)の話を、どうも学校が赤いものを忘れず、それ以来豊原の「窓風の井出」を買い求め、列市内では業者にも聞かせるように「ソボヤの井出ほうまい、うまい」と言つていたよつた。

そんなエピソードを聞いている私たちは、愛知大学創立のご苦労と、本間氏(東海同文會院大学元学長・最高裁判所初代事務総長・愛知大学学長)を偲びながらの1年をまとめた。

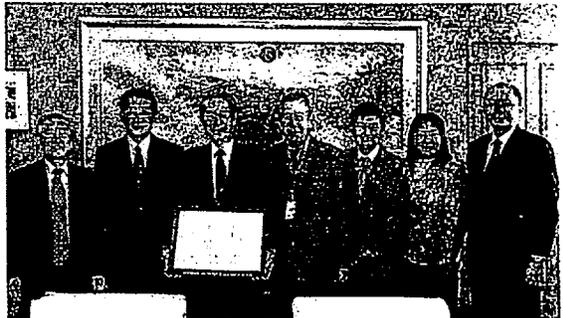
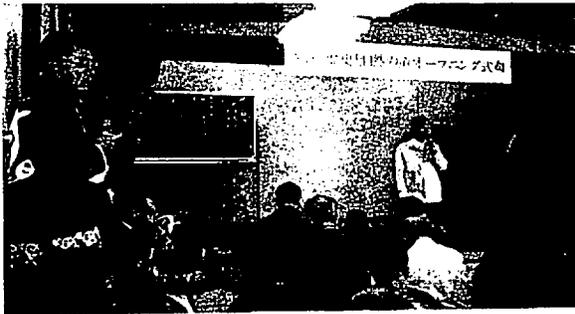
現在、一つのキャンパスを持つまでに発展した愛大は「いなり井出の蒸籠」の「救いの手」によつて本間喜一先生は、元気づけられたとも思われる。

(東海同文會院大学記念センター 客員研究員・越中啓)



本間喜一先生を偲びつつ窓風の井出を食へるセンターのメンバー。





愛大から表彰を受けた栄まちづくりを考える会の  
石垣会長ら

愛知大学の栄まちの核に



栄まちづくりを考える会(石垣純孝会長)の勉が深い。地元南郷中学校が、1月19日に豊橋市栄校区市民館で開かれ、記念館や愛大東亜同文書院記念センターについて水口源彦氏(83)が講師として招かれた。

奇稿

水口氏は一橋大学を卒業されたが、その弟さんは4人とも愛知大学のOBであるため、愛大の歴史について語り継いでほしいと、私が主催する「さかえ歴史と自然の道」の運営にあたり、特別に辞退申し上げた。

あのまち このまち

市内有数の文教地区の「さかえ歴史と自然の道」

栄校区は昭和27(1952)年、栄小学校の開校に伴い、福岡校区から分かれて誕生しました。戦前この地域には陸軍の駐屯地や演習場があり、その影響で保育園から大学まである市内随一の文教・住宅地区として発展してきました。「さかえ歴史と自然の道」は、市政施行100周年記念事業として

よはし100祭」として取り組んだ事業のひとつで、駅など4か所の案内板の設置と情報満載のウォーキングマップを作成しました。「さかえ歴史と自然の道(ウォーキングコース)」はかけがえのない歴史建造物や自然を地域の共有財産として保存するとともに、より良いまちづくりに役立っています。

さかえ歴史と自然の道を歩こう  
▼とき 4月5日(日)午前9時(出発) 11時半(少雨決行) ▼集合  
栄校区市民館(北山町字東浦) ▼コース ①愛知大学(記念館・公館)→諏訪神社→小松神社→北山神社コース②早咲きの花畑→からくり時計→蓮華神社→高師緑地のいすれか▼その他 ウォーキングマッププレゼント▼問合先 栄校区まちづくりを考える会(☎45-2113石垣)



これに対し、愛大は島に通出と強がらかり、「地元愛知大学をもっと『平成16年以來、地区市民の発意に基づき自然と文化と歴史が共生する開かれた愛知大学が地域と一体になったパンフレットや立て看板製作した」ということで、平成19年1月に同会に「感謝状」を贈呈している。愛大東亜同文書院記念センターでは、こうした愛大地元の事情も兼ね、地域の人たちの深い関わりを継続し、共生共進を図り、地域文化に貢献するために「友の会」を計画し、3月には第1回の結成準備会を開くことと予定している。(愛知大学東亜同文書院大学記念センター委員 事から「愛大は名古屋歴史研究員